

授業記録 3-3 算数科「授業の流れ」

14:39 挨拶

T: そしたら、昨日の復習から行くよ。昨日は10倍の勉強をしました。

5×10=いくらでしょう。

C: 50。

T: 何で50。

C: 5×9に5を足す。

C: 掛け算は逆にしても一緒やから。

T: 10が5個分、みんなで。

C: この問題をやるのか知らんけど、この問題って全部何十になるのちがうかな。

C: まず0を置いといてという問題。

T: じゃ、2×10=、その答えは？

C: 20。

T: じゃ、20×10は？

C: 200。

T: 何で200になるのかな。

C: 20×10はね、多分ね、10の0を20に足す。

C: 5×10で50になったやん。0が多分増えるはずやねん。

T: じゃ、昨日の復習から始めよう。昨日、10倍する考え方について、ノートを見て復習しよう。

C: 10×10=100。

C: まず20×10やから、10の0を20の後ろに付けると200になった。

T: そう、じゃあ、今日のめあてをかくよ。

「25を100倍、1000倍した数についてせつ明しよう。」

T: 式書けた人？

C: 25×100

T: いよいよこれを考えていきたいと思います。位が一つ上がったのでドキドキしています。考え方を書きましよう。位取り表欲しい人はあげます。

14:54

・・・おー、図も書けたら最高やな。悩んだら、昨日のノートを見たらいいよ。

T: 班の席にして、班の人にそれぞれの考え方を聞いてもらおう。

解決計画：㊦課題の確認㊧既習事項の確認



既習事項の振り返りと本時のめあてをつくる。



「位の階段表」を板書して、本時に活用する手立て確認。



分からないところは、何度もノートを見ながら確認。

解決計画：②比べることの確認



それぞれの意見を聞き、班の考えとして選択。

(班の一コマ)

C: 25 を 20 と 5 に分けて、 $20 \times 100$  で 2000 と  $5 \times 100$  で 500 を合わせて、2500。

C: 100 倍の 00 を取って、 $25 \times 1$  に 00 をつけて 2500。

15:07

T: じゃ、そろそろよろしいですか？書ききれてないところは、口でカバーしてください。

解決計画：②比べることの確認



1 班の発表：聴衆側は 6 班との相違点を意識しながら聞き取る。

解決計画：⑦形式の確認



6 班の発表：ホワイトボードを黒板に掲示。モニターに映して発表。



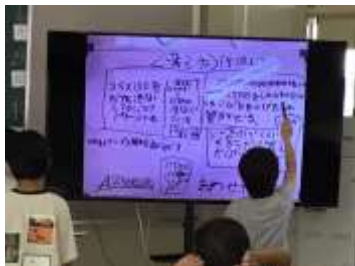
ホワイトボードに考えを記入し、発表の練習。

T: みんなに聞きたいけど、1 班と 6 班では、仲間ですか仲間じゃない考え方ですか？

C: 仲間では・・・ない。

T: じゃあ、ちょっと離して置いておこう。

解決計画：③根拠の確認



4 班の発表：(違う考え)

100 の 25 個分

C: 復習と今日の問題では、全然位が違う。

C: 10 が 100 に変わっている。

T: どこに仲間分けする？

C: 同じかバラか。

C: 4 班にも似てる。 C: 4 班ちゃうやろ。

C: 6 班と同じだと思います。

T: さあそしたら、この 3 つは似ている。

100 の 00 を取って、 $25 \times 1$  に 0 を二つつける。

T: 4 班にも同じ考えがある。

T:  $25 \times 100 \rightarrow 25 \times 10 = 250$   $250 \times 10 = 2500$

$25 \times 10 \times 10 = 2500$ 。

T: 最後までまとめだけ、

「どんな数でも 100 倍すると、位が 2 つ上がり、右はしに 0 を 2 つつけた数になる。」

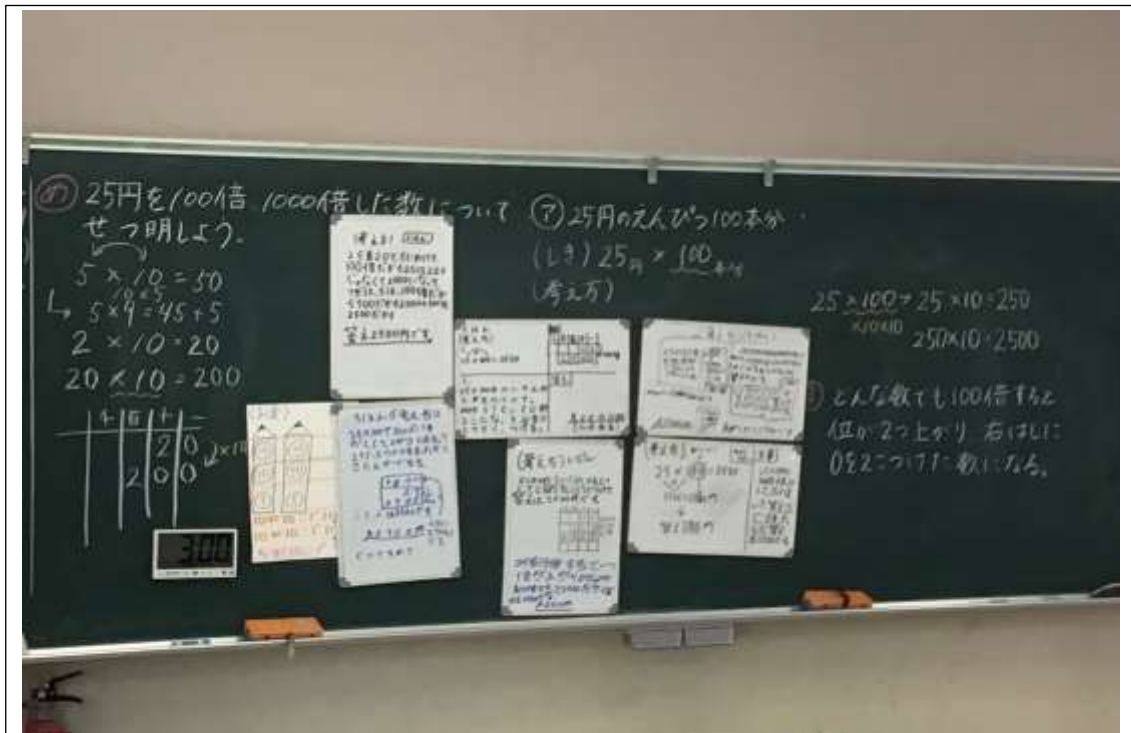
C: 前回と一緒になんよね T: 考え方が同じってこと？

C: そうそう。

T: では、振り返りを書いてください・・・

T: 終わります。号令してください。

(板書)



#### 算数科の課題解決型学習とユニバーサルデザイン化について

「解決計画㊦㊧㊨㊩」に沿った授業づくりでは、児童の思考に寄り添いながら、課題解決を図ることができる有意義な授業展開を仕組むことができた。さらに、ユニバーサルデザイン化における「視覚化」では、ホワイトボードとモニターを使用することで、児童の思考を視覚的に補うことに十分な効果があった。また、「焦点化」においても、「 $\times 10$ 、 $\times 100$ と「0」の数に着目させるとともに、位の階段表を利用することで、どんな数でも10倍、100倍する時、一の位や十の位に「0」を置けばよいことに気付きやすくさせられた。「共有化」を図る場面では、自力解決の際の「ギャラリーウォーク」や「ペアトーク」の活用を取り入れても良かった。しかし、班(3~4人)での話し合いは、十分な機能し、自分の意見と比べながら聞き取る様子が見られたり、比べることでより良い考え方を班で創り上げたりすることができていた。最終のまとめの「共有化」を図る場面では、より時間に余裕を持たせていれば、児童たちのことばでまとめることができていたと思う。次回の授業からは、児童の意見を児童らとともに収束・統合させられるようにしたい。そして、このような授業の「構造化」を図り、他の教科へと発展させていきたい。